

アドミュージアム東京が12月1日(金)に リニューアルオープン！

アドミュージアム東京は、2002年12月に日本初の広告ミュージアムとしてカレッタ汐留に開館しました。
このたび開館15周年を機に、2017年12月1日に全館リニューアルしました。



明るく開放的なメインエントランス

リニューアルコンセプト

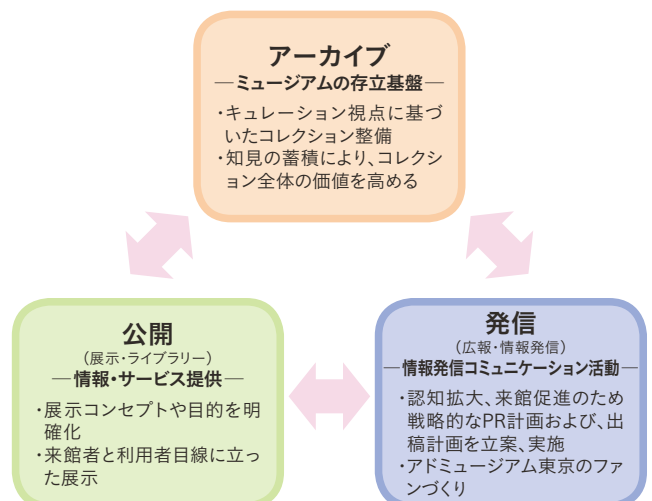
今回のリニューアルにあたり、「Into Creativity」をコンセプトとして掲げました。広告を通じて、人間や社会を捉えることができ、そこからさらに、深く広いクリエイティブの世界への扉が開かれます。

アドミュージアム東京に来館いただいた方の創造力が呼び覚まされ、まるで「知的好奇心の遊び場」のように感じていただける場所を目指しました。

オープンで入りやすい雰囲気

オープンで温かい空間を目指し、エントランスの外から館内が見えやすく、「入ってみたい」と思ってもらえるような雰囲気になりました。

アドミュージアム東京を支える3つの活動



常設展示

リニューアル後の常設展示では、歴史をたどるだけでは見えてこない「人間の本质」をより立体的に描き出すように構成。「学ぶ」と「楽しむ・感じる」の2つの柱を掲げました。人々の営みを映してきた、たくさんの広告を通じて人と広告の関わりを考えていきます。

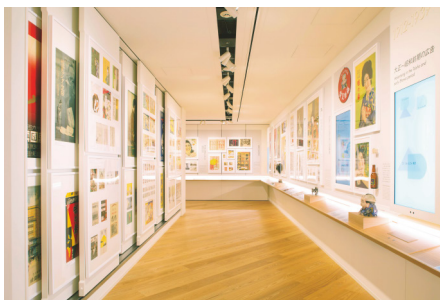


館内の階段を上ると常設展示が一望できる。右側は江戸時代の広告展示、左側は視聴ブース「4つのきもち」、中央は「コレクションテーブル」

「学ぶ」



「世界初!?!の天才マーケター」「今も昔もアイドルは広告の主役」などの展示のポイントを伝えるコピーが並び、現代の広告のヒントにもなるような構成に



右側は、大正・昭和初期の展示。左側は、この時代を彩ったPR誌やパンフレット、ポスターなど多数の所蔵作品を、スライド式の壁面展示で紹介

「ニッポン広告史」 ——社会と人間を映す鏡

ピーター・ドラッカーに「マーケティングの原点は日本の江戸にあり」といわしめた江戸時代の広告から現在までの広告を通して、社会と広告の関わりや広告領域の変化など、新しい視点で広告をご覧ください。

「楽しむ・感じる」



感情のイメージを表現したブースの中で、テレビCMなどを視聴できる

視聴ブース「4つのきもち」「コレクションテーブル」

視聴ブース「4つのきもち」では、強く共感させられる広告、深く考えさせられる広告など、時代を超えて人の心を動かしてきたテレビCMなどを厳選してご紹介します。

「4つのきもち」は、以下のように分類したブースでお楽しみいただけます。「Yeah! 元気が出る広告」「Love 心あたたまる広告」「Wow! びっくりする広告」「Hmmm…考えさせられる広告」。

「コレクションテーブル」では、大型タッチ式モニターで1950年代から現在までのテレビCM、ポスターなど画面上に流れる約2,000点のデジタル広告資料を自由にお楽しみいただけるほか、引き札、錦絵など、古今を問わず一般にはなじみのないアナログ資料もご覧いただけます。



上：引き札や錦絵などをわかりやすい解説とともに閲覧できる
左：多くの広告がまるで時代を構成する大河のようなイメージで流れている

企画展示

企画展示スペースでは、広告賞の受賞作品を紹介する展示や、アドミュージアム東京独自の視点で広告コミュニケーションの可能性を紹介するオリジナル企画展を実施しています。

「思いつく」を考える展

2017年12月1日～2018年2月24日



優れたアイデアの裏側には何があるのか。独自に分類した9つのテーマごとに展示構成がなされ、思考の過程に迫る

話題のヒット作、便利な日用品など、優れたアイデアの裏側には何があるのか。それらのアイデアを「思いつく」というのは、才能や感性の産物ではなく「思いつく方法を見つける」ための手法の活用や地道な努力の成果でもあります。そこで、「思いつく」の

過程に迫り、考えることの面白さを伝えていきます。

展示を通して、「アイデアが生まれるって、こういうことか」「これなら自分にもできるかも」と、明日からの仕事や生活をちょっとだけ変えるヒントになればという想いから企画しています。

さらに充実したライブラリー

広告・マーケティングに関する専門ライブラリー。約2万8,000点の図書・雑誌資料を所蔵しています。これまでのリサーチ機能はそのままに、来館者が気軽に広告の調べものをしたり、図書を手に取れる工夫を加えて、より開かれた空間へと生まれ変わりました。アドミュージアム東京の広告資料データベース「デジハブ」も館内

で閲覧いただけます。また、オープンスペース「クリエイティブキッチン」を新設し、広告に関する研究会や小

セミナー、トークサロンの開催など、コミュニケーションの発信拠点としての活動を予定しています。



オープンスペース「クリエイティブキッチン」



蔵書は自由に閲覧可能

新しいブランドステートメント

今回のリニューアルに合わせて、新たなブランドステートメントを作成しました。

いつも、あなたに、新しい発見を。

人間のもつ普遍的な面白さ、愛おしさを表現してきたたくさんの広告は、人の心を動かすアイデアの宝庫。

笑いや涙、驚きや共感。心を惹きつけるものは、時代をこえて、根っこの部分でつながっている。

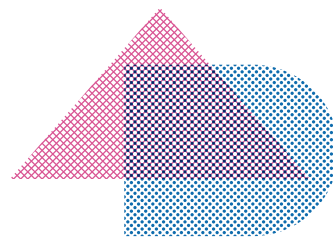
人が生み出してきたたくさんの広告を通して、気づきや、新しい発見と出会ってほしい。

広告って、やっぱり面白い。

アドミュージアム東京へ、ようこそ。

新VIロゴが登場

「Transformation」をコンセプトに、クロス柄のAとドット柄のDを掛け合わせたロゴを作成いたしました。



Webサイトをリニューアル

今回の全館リニューアルに合わせて、アドミュージアム東京のWebサイトもリニューアルしました。

企画展示やアクセスなどの個別の情報を、トップページのビジュアルでわかりやすく並べて表示することによって、各要素へアクセスしやすくなりました。

URL: www.admt.jp

館長より

ごあいさつ

私たちが普段なにげなく接している広告。

人間のもつ普遍的な面白さ、愛おしさを表現してきたたくさんの広告は、人の心を動かすアイデアの宝庫です。

このたび、アドミュージアム東京は、全面リニューアル致しました。

より直感的にクリエイティブの面白さ、奥深さを感じていただけるよう、明るく開かれたスペースへ。

過去の広告アーカイブはもちろん、本ミュージアム独自のテーマでの企画展を通してクリエイティビティの未来をみなさんと一緒に考えていきたいと思います。

世界でただひとつの広告ミュージアム、アドミュージアム東京にぜひ気軽にお立ちよいただき、心ゆくまで楽しんでいただけたら幸いです。

今まで広告なんて興味なかった、という方こそ、大歓迎です。

アドミュージアム東京 館長 森 豊子



アドミュージアム東京について

広告を通して新しい発見に出合う場所。世界に例のない広告ミュージアム

2002年の開館以来、200万人を超える方々にご来館いただき、広告の社会的・文化的価値への理解を深めていただく活動を行っています。江戸時代から現代まで約30万点の収蔵資料を誇り、ライブラリーでは、広告とマーケティング関連書籍の閲覧、広告作品のデジタルアーカイブを検索・閲覧することができます。

入 場 料：無料

開 館 日：火～土曜（11:00～18:00）

休 館 日：日・月曜

住 所：〒105-7090 東京都港区東新橋1-8-2 カレッタ汐留

T E L：03-6218-2500

運営団体：公益財団法人 吉田秀雄記念事業財団